

〔河崎氏年代記〕一永正二乙丑内宮大橋カ、ル本願守悅也子。細有テ無供養半日ノ祓有也。

〔香取志上〕橋祭

同○十一夜あり是五段田てふ所の橋を祭也。昔一橋二橋三橋連三所にて祭しと云今不詳思に御船山北堤の橋と草履脱橋と合て然云しにや外に橋なれば也。

〔雍州府志古跡〕綏喜郡略○中金橋在橋本南是山城與河内之境界也。斯橋改造時隔中間自兩國互半造之造畢渡初之日自山城國所出之監事人與河内國經營之人各互渡橋而於中間行逢互別歸是表兩國境界之微意也。倭俗處々橋改造時成就日始渡者稱渡初而祝之。

〔國花萬葉記四河内〕交野郡金橋山城河内兩國之境兩國よりかけ渡して渡り初兩方の奉行橋の眞中にて行て兩方へ渡ると也又山城名所にも出ス。

〔一話一言四〕江州非人

ある人江州へ行き侍りしに一の非人村あり其所に橋の渡りぞめありしを立止りて見侍りしに非人頭とおぼしき者圓座に座してありけり村のものども橋の渡りぞめの祝儀を持來る其中より瘦て色悪き男一人茄子三つ持來て頭の前に進む頭たるもの足を見て汝は頃日相煩ひ居ると聞しに何とて此茄子を持來るやと問ければ左様に候永々の病氣難義仕候處に此度橋の渡りぞめに付頭殿へ祝儀をいたすべきよし小頭より申渡し候ゆへ夜前他處の畠へ往きぬすみ申候と云ふ頭の云乞食は盜をせまじき爲也盜をなせば乞食はせず汝は村の住居はなるまじきと云て小頭を召てかれが快氣次第村を拂ふべし病氣の内は番を致すべしといひわたしけるとかや下略石田勘平都鄙問答に見へたり。

〔半日閑話三編四〕一昨十九日兩國橋出來ニ付往來初有之候ニ付渡初致候老人之身分風聞承リ可申上旨被仰渡候ニ付承合候趣左之通ニ御座候